

シームレス地質図でたどる 幸田 文『崩れ』(第10回)

森尻理恵¹⁾・中川 充¹⁾・斎藤 眞¹⁾

10.1 有珠山

このシリーズの最後に幸田 文が訪ねて行くのは、北海道の有珠山です。幸田 文が有珠山を訪ねたのは1977年の10月です。1977年8月に有珠山の噴火が始まり、地震活動は続いていましたが、噴火はいったん収まりました。11月に火山灰を噴出する水蒸気爆発が始まり、新しい火口を次々に生じて1978年10月まで続いていました。桜島へ行く準備をしていたら有珠山が噴火したと『崩れ』には書いてありましたが、よく行ったものだと驚きました。遭遇はしていませんが、1978年10月には豪雨による土石流が発生し、犠牲者も出ています。

有珠山についてはさすがにこの時期に山には入れなかったと思うので、少し淡い感じの作品になっています。おそらく、車で案内され、洞爺湖温泉に宿をとり、8階の部屋からの景色を眺めながら思いを巡らせたようです。

宿では八階に部屋がとってあった。高いから、広い景色がみえる。眼下に洞爺湖がひろがって、中ほどに島を抱いている。まわりをとりまく山々、遠く羊蹄山が端正である。申分ない景色だが、湖を囲む山々の半分は紅葉のにしきでいきいきとしているのに、あと半分は灰色につぶれている。あまりにもはっきりと分かれた対照である。町はいま一応とりあえずの片付けが済んだというところであり、本当の復旧のむずかしさは、これからはじまる。智力、資力、努力を集結して当たるのだらうと推察する。そんななか、この灰色の山林はやがて雪に埋まる。どうしてみようがないのも、仕方があるまい。自然回復に待つよりほかないのであろうか。たとえ伐採しても、チップにもならないという。灰にまじって降った石の小粒が喰いこんでいるから、刃物をいためて、仕事にならないのだそうだ。近い将来には役に立たない木、厄介もの、と呼ばれるようになるのだろうか。湖も山も暮れていった。暮れば紅葉も灰色も、一面の闇になった。今朝空港で教育長さんが、被災

地も案内するが、きれいなところも見せておきたい、といってくれた心づかいを思い返す。(幸田 文『崩れ』講談社文庫、174-175頁)

青木奈緒が幸田 文の足跡をたどるために有珠を訪れたのは2000年2月でした。『動くとき、動くもの』によると「惚けてしまうほどの安穩こそ無上に有難いとわかっていながら、同時に私の力量ではとても扱いようがない。いっそ災害なら書く種になるが、無事は書きようがない。皮肉なものだと思った。」とあります。ところが、その1ヵ月半後の3月末に有珠山が再び噴火したのでした。2000年3月末の噴火は翌年7月には終息しました。そこで、2001年10月に再び有珠を訪ねています。このあたりの行動力はおばあさん譲りかもしれません。

祖母は「崩れ」を連載している最中に前回の噴火に逢った。ほぼ四半世紀の時間をおいて、有珠は私に鎮まった姿をみせておきながら、そこからドカンと噴火して見せた。

誰にだったか、言われたことがある。有珠に呼ばれちゃったんじゃないの? と。なんと人間きの悪い、と内心腹を立てながら、それならそれで、この機会を逸すまいと思った。

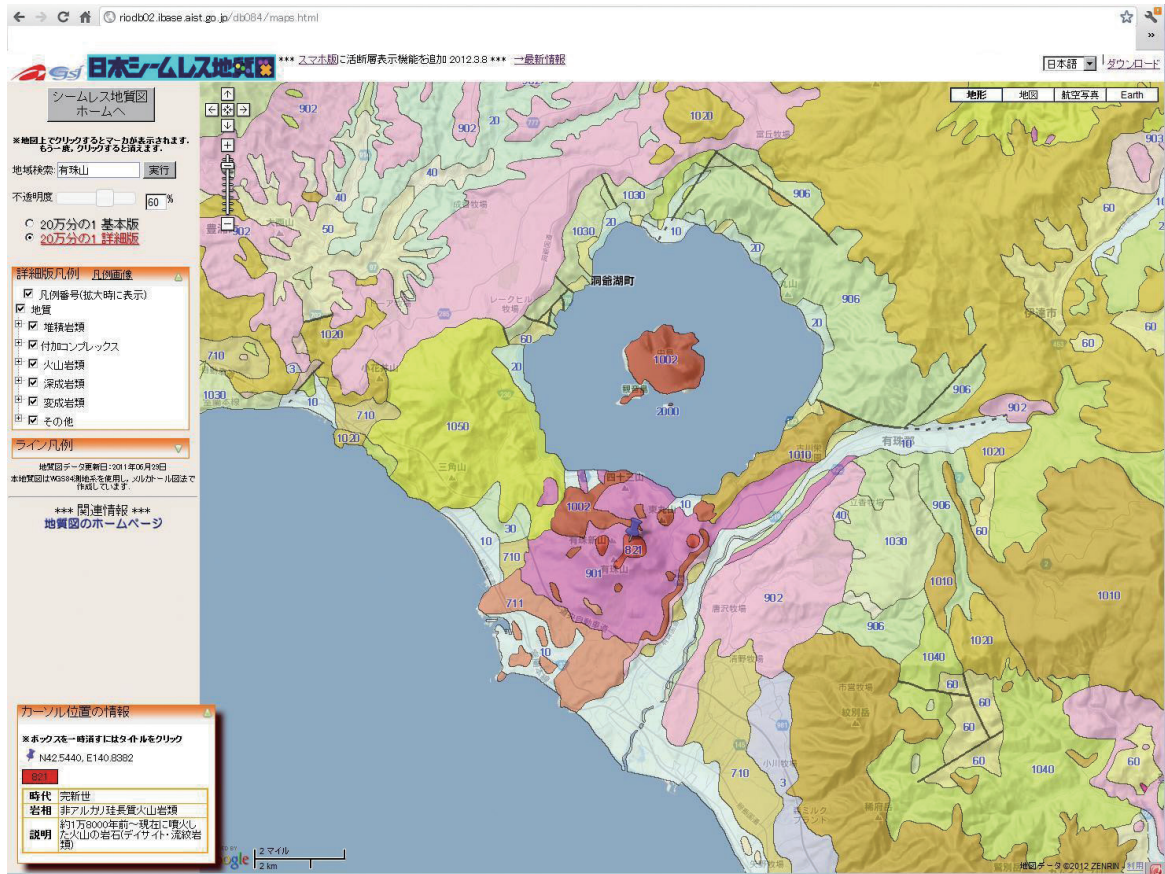
見終わって心に残るのは、四半世紀の歳月を人は無駄にしてこなかった、という明日への希望につながる嬉しさであり、有珠山と共生する皆さんのへこたれない心意気である。それでも復興への道は厳しかろう。何かできないものだろうか、という思いを胸に、噴火から1年半がたち、ふたたび平穏をとりもどしつつある有珠をあとにした。(青木奈緒『動くとき、動くもの』講談社文庫、178-179頁)

10.2 シームレス地質図で見る

それでは、該当する場所のシームレス地質図(詳細版)を第1図に示します。まずは、「有珠山」で検索をすると、ここはヒットしてマーカーがつくので、どんどん拡大して

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: シームレス地質図, 幸田 文『崩れ』, 地すべり, 地理情報システム(GIS), Googleマップ



第1図 シームレス地質図による有珠山周辺の表示. ピン形マーカーの指すところ(有珠山山頂部; 図の中央下寄り)の凡例が左下に示されている.

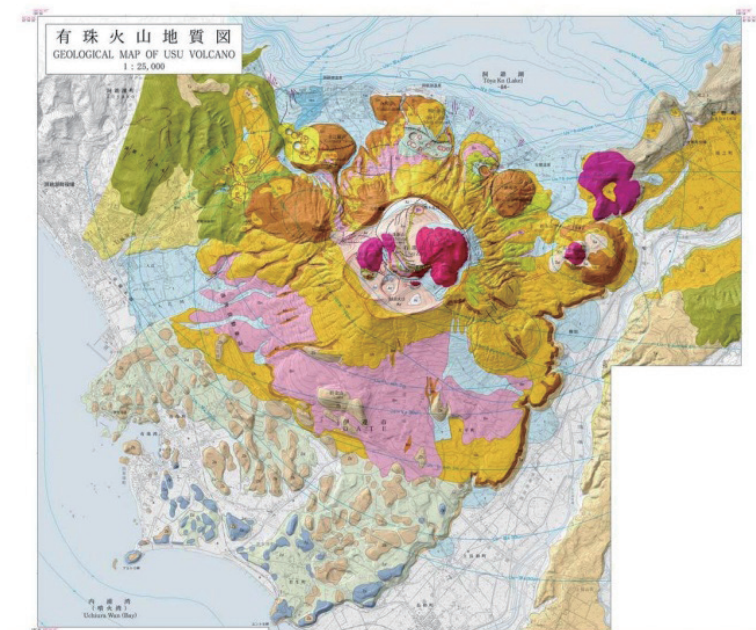
いきます。凡例を表示させると、有珠山には3種類の岩石が表現されています。山頂付近は821番の約18000年前～現在に噴火した火山の岩石（デイサイト・流紋岩類）、洞爺湖の中島や洞爺湖側の斜面には、1002番の約15万年前～約18000年前に噴火した火山の岩石（安山岩・玄武岩類）、そして全体を広く覆っているのは、901番で約18000年前～現在に爆発的噴火により高速で流れ下った軽石や火山灰（火砕流）と出ます。

主要な火山では、更に詳しい火山地質図も出版されています。シームレス地質図は20万分の1スケールですが、火山地質図は25000分の1で作られており、噴火ごとに区別されています（曾屋ほか、2007）。これも、データベース上で画像が公開されています（第2図）。火山についての解説もあります。以下、活火山データベースの解説によると、有珠火山は、洞爺カルデラの南壁上に生じた二重式の火山で、直径約1.8kmの外輪山をもつ玄武岩-玄武岩質安山岩の成層火山（基底直径6 km, 比高約500 m）と、その側火山（ドンコロ山スコリア丘）、および3個のデイサイト溶岩ドーム（小有珠、大有珠、昭和山）と多数の潜在ドーム（西山、金比羅山、西丸山、明治新山、東丸山、

オガリ山、有珠新山、2000年隆起域、ほか）から構成されています。潜在ドームは粘性の大きなマグマが地表を隆起させて生じたもので、この実例は1910年に明治新山の形成によって初めて明らかにされました。有珠山の溶岩ドームは、いずれも粘性の極めて高いデイサイトマグマが地表を隆起させて潜在ドームを作り、更に引き続き溶岩が地表に突出したもので、その表面は滑り面をもつ赤い天然レンガで被覆されているのが特徴です。これらのドーム群は、山頂および北麓を通る北西-南東方向の2帯に配列しています。ドームのいくつかは歴史時代に生じたことが記録からも明らかです。

幸田 文の「崩れ見てある記」はこの有珠山への旅が最後でした。娘の青木 玉によるあとがきによれば、「この仕事の性質上、今までに考えもしなかった取材が計画され、行って見たい一心で人様の背中まで拝借してのことである。母の性格から言ってただの好奇心などという生やさしいものでは無かった。」とあります。

『崩れ』を、地図も写真もない文庫本で読んで、その文章から受ける、圧倒的な迫力に感動したのが最初ではありません。ただ、実際の斜面を知らないのでイメージがわき



第 2 図 有珠火山地質図 (部分). <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/volcmap/02/map/volcmap002-m.html#> (2012/05/29 確認)

にくいところも正直言ってありました。これが、幸田 文が最後まで気にしていた「とてつもなく掴みどころのないものに立ち向かって行った」という感じなのではないかと勝手に思いました。そこで、幸田 文が訪ねていった場所について、少しでも知識が加われば、作品鑑賞の手助けとなり、更に興味がわくと生意気なことを思いついたのでした。そこで大きな助けになったのがシームレス地質図でした。シームレス地質図は、PCやタブレット端末上で、気軽に見ることができる地質図です。更に、防災科学技術研究所地すべり地形分布図データベースや活火山データベース(産業技術総合研究所, 2012b)などが整備されていますので、それらを見ながら、非力も顧みず、今回の連載を書いてみました。

次回は『崩れ』から離れて、シームレス地質図の使い方をまとめた回にする予定です。

文 献

青木奈緒 (2005) 動くとき、動くもの。講談社文庫, 東京, 333p.

幸田 文 (1994) 崩れ。講談社文庫, 東京, 206p.

産業技術総合研究所地質調査総合センター (編) (2012a) 20万分の1日本シームレス地質図データベース (2012年3月30日版)。産業技術総合研究所研究情報公開データベース DB084, 産業技術総合研究所地質調査総合センター。 <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/maps.html> (2012/05/29 確認)*¹

産業技術総合研究所地質調査総合センター (編) (2012b) 活火山データベース (2012年4月9日版)。産業技術総合研究所研究情報公開データベース DB099, 産業技術総合研究所地質調査総合センター。 <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/index.html> (2012/05/29 確認)*²

曾屋龍典・勝井義雄・新井田清信・堺幾久子・東宮昭彦 (2007) 有珠火山地質図 (第2版)。火山地質図2, 産業技術総合研究所地質調査総合センター。

* 1 2013年度より <https://gbank.gsj.jp/seamless/> に移転

* 2 2013年度より <https://gbank.gsj.jp/volcano/> に移転

MORIJI Rie, NAKAGAWA Mitsuru and SAITO Makoto (2014) Seamless Digital Map of Japan shows landslide slopes in "KUZURE" written by Aya Koda (10) .

(受付: 2012年5月29日)